

子供たちとの対話をととした 学校デザイン・プロジェクト

みんなのウェルビーイングのために

第1回 ラウンド・テーブル 開催報告

文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室

● 開催の目的

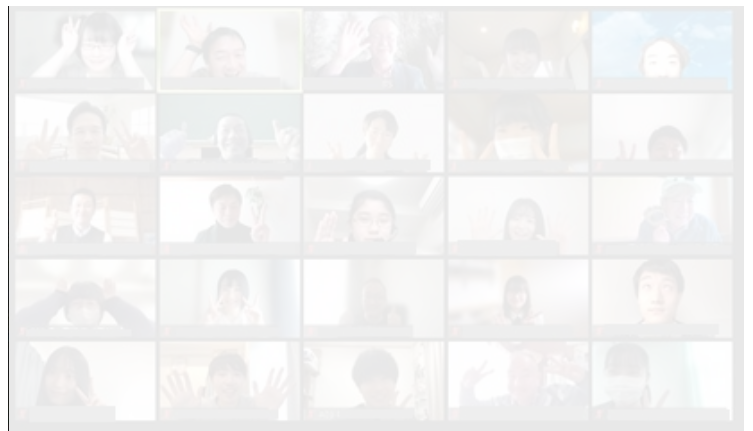
我が国の学校教育は、学校関係者や子供たち自身の努力によって、国際的な学力調査において高い成果を出す一方、学ぶ意欲などについては課題があることや、不登校の児童生徒の増加、また授業や部活動等の学校生活に十分な意義や当事者性を見出せない子供たちが相当数いることも推測されます。

そうした中、**最大の当事者である子供たちの声にも真摯に耳を傾けながら**、教育の在り方を考え、学校の教育活動など子供たちを取り巻く環境の改善・充実を図っていくことが重要です。

こうした観点から、**子供たちのよりよい学校生活に向けた各学校等における取組の検討・実施等に資する**よう、子供たちの他、学校関係者等の幅広い層が、学校を中心とした子供たちを取り巻く環境について対話し、学校生活をめぐる「ウェルビーイング（心身の健康や幸福など）」について考える「ラウンド・テーブル」を実施しました。

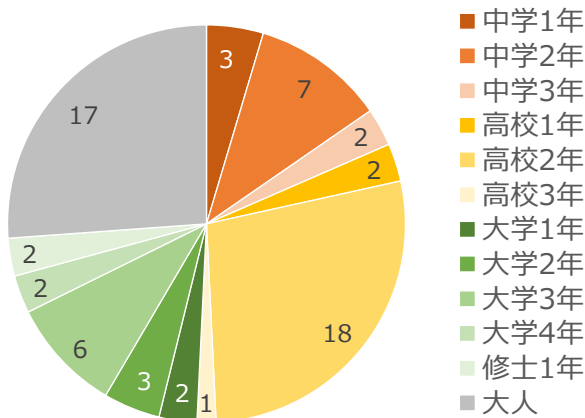
● 開催日時・実施方法

- 令和4年3月20日（日）
- 9：30～12：00 @Zoom

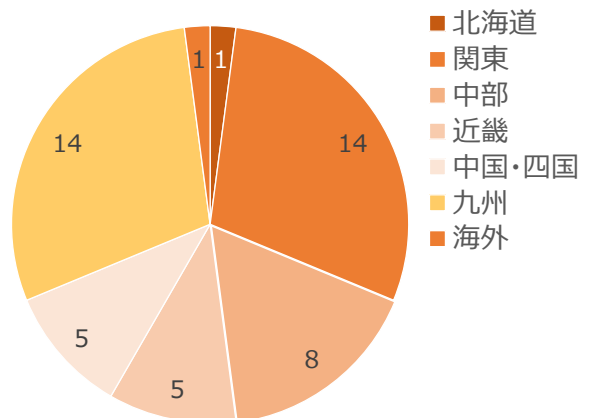


● 参加者プロフィール

全国から計65名（うち、中高生33名、大学生15名、大人17名）の方にご参加いただきました。



学年・属性ごとの参加者の内訳（名）



中学生・高校生・大学生の居住地内訳（名）

● ラウンド・テーブルから出てきた「こんな学校がいいな」!

テーマA

授業・学び

#他の生徒とお互いに教えあうことができる
#学んでいるうちに、色々気になっていく授業
#授業という枠組みを自分から超える学び

#「不思議」から学びにつながる授業
#授業の面白さとわかりやすさはつながっている

テーマB

学校でのルール

#みんなが納得できるルール
#理由があるルール
#先生によってOKとNGの基準が違うのは困る
#先生と生徒以外の視点も必要

#何がよくて何が悪いかを、生徒が意識しながら行動する

テーマC

子供同士のつながり

#同級生も先輩・後輩がお互いに「もうちょっとこうした方がいい」が言い合える関係
#お互いの違いを受け入れる関係
#相手がどう思っているかをキャッチしてコミュニケーション

テーマD

先生とのつながり

#もっといろいろな先生との関わりの機会が欲しい
#自分が知らないことも認められる先生
#必要な時には叱ってくれるメリハリのある先生
#生徒である自分からもっとコミュニケーションを取りに行きたい

テーマE

地域・社会とのつながり

#単発イベントではなく継続的に関わられるコミュニティがある
#自分の興味・関心をもとに気軽に参加できるコミュニティがある
#そもそも地域と学校を分けて考えないほうがいい
#地域と学校を溶け込ませるコミュニケーションをしたい

テーマF

学校生活の基盤 (環境)

#人と人との交流の場がたくさんある
#相談できる場所があると休む場所がある
#知的な刺激に満ちている
#安全で快適な学校施設・設備

#生徒や教師に活気がある
#自由に学べる

● 参加者の感想

先生を悪者だと思っていたけど、話し合いを通じて私自身も先生への接し方を変えられると思った。私も変わりたいと思いました。(中学生)

司会の人対話していたら意見が変わることがあると思うと言っていたけれど、その通りだった!(中学生)

自分にはなかった意見や一人では思いつかなかった意見を聞いて良かったです。何より皆さんに意見を聞いてもらったり発表したりすることが楽しかったです。(中学生)

客観的に見ることで考えが深まった(中学生)

よりよい学校を作る上で、先生も生徒も互いに尊重する環境作りが重要だ、と考えが変わった(大学生)

教育を与えるもの、与えられるという関係を越えて、よりよい学び・教育・学校を共にするための対話を目指したい(大人)

話しても何も変わらないんじゃないかと思っていたのですが、皆さんとお話することで、教育は当事者である私たち子どもが意見を発して、変えていくべきだと思うようになりました。(中学生)

中学生、高校生でここまで考えているのは驚かされた。(大人)

